

研究の概要

1. 研究主題

主体的に学び、深め合い、自己を見つめ直す子の育成

～自分事として捉え、対話を通して学びを深める道徳の授業づくりを通して～

2. 主題設定の理由

本校では、昨年度、国語科において「主体的に学び、伝え合い、深め合う子の育成」を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に重点を置いた授業改善に取り組んだ。教師が指導事項を明確にし、児童が主体的に関われる言語活動を吟味・設定することで、児童が見通しをもって学びを進められるようになった。また、学習手段や相手、課題を判断・選択する場面を設定したことで、主体的に学ぼうとする姿も増えてきた。対話が成立する場面が増え、発問や問い返しの工夫によって児童の考えが広がり深まる場面も見られた。しかし、児童自身が学ぶ必要性を感じ、協働によって自分の学びを広げたり深めたりする良さや楽しさを実感するには至らず、さらなる改善の必要性が浮かび上がった。また、昨年度の学力調査の質問紙調査からは、「自分にはよいところがあると思う」「課題解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる」「将来の夢や目標を持っている」といった項目の数値が低く、児童が自己を見つめ直し自らの成長を実感しながら、よりよく生きようとする意欲を高めることが求められている。このことから、今年度は道徳の授業において、「主体的に学ぶ」「深め合う」ことを通して、児童が自己を見つめる姿勢を育むことを目指した研究に取り組む。

具体的には、①ねらいに迫る授業構想と発問の工夫、②対話を通して学びを深める手立ての工夫、③構造的な板書の工夫の3点を柱に、児童が自分事として捉え、対話を通して学びを深める道徳の授業づくりに取り組む。その際に有効なICTの活用法についても探っていく。また、生徒指導部と連携し、「自己存在感」「共感的な関係」「自己決定の場」「安心・安全な風土」といった視点を大切に人間関係づくりを進め、トークタイムや構成的エンカウンターなどを通して、学び合える土台を育む。さらに、異学年交流や児童会活動などで多様な他者との関わりを生み、道徳的価値を実感できる機会を保障する。加えて、地域教材の導入、道徳通信やファミリー道徳の取組を通して、児童・保護者・地域をつなげ、道徳の学びを生活と結び付けていく。本研究を通じて、児童が「自己を見つめ直す」ために、自分自身の考えを深め、他者と関わりながら成長し続けることができるような道徳の授業を実現していきたい。

3. めざす児童の学びの姿

主体的に学ぶ子

★具体的な姿

- ・自分の考えをもっている。
- ・自分の考えを友達に伝えようとしている。
- ・自分事として考えている。

深め合う子

★具体的な姿

- ・「聞く」ことを大切にし、友達同士で認め合っている。
- ・対話を通して、多面的・多角的に考えている。
- ・深め合うことを楽しいと感じている。

自己を見つめ直す子

★具体的な姿

- ・自分のよさや弱さを自覚している。
- ・自分をふり返って考えている。
- ・自分への気づきから行動につなげようとしている。

4. 主な研究内容・方法（ねらい達成のために以下の研究を進める）

1. 授業づくり

①ねらいにせまる授業構想と発問の工夫

- ・どのように発問すれば、めざす姿が達成されるかを考える。
→授業構想シートを活用し、教材分析、ねらいの確認、ゴールの姿、発問の吟味、板書計画をする。
- 授業交流を児童同士や職員同士行い、学び方の良さを見つける機会とする。

②対話を通して学びを深める手立ての工夫

- ・学びが深まるような対話を生み出す工夫を考える。
→対話を深めるQワードを活用し、意識させる。
- ・対話がねらいに向かっているか見取り、子どもの状況に応じた関わりを考える。
→中心発問から、さらに学びを深めるための発問や問い返し、対話が生み出せるような学習形態やICTの活用について指導案に明記する。
- ・手立ての1つとして、ICTの効果的な活用を考える。
→教材の特徴や児童の発達段階を考慮し、活用場面の検討、ねらいとする価値に迫る手立てとする。
- ・各教科で対話力を養う
→昨年度国語科で取り組んだ実践をもとに、児童に判断・選択させ、考えを広げ深める時間を設定することで、児童が対話を通して見方、考え方を働かせ学びを深めていけるようにする。

③構造的な板書の工夫

- ・どんな板書が終末にあると、児童が自分事としてふりかえることができるか考える。
→ICTの活用も含め、終末の板書を撮りためて、月に一度の部会で交流する。

④学びのあしあと（既習の掲示・ふりかえり）

- ・既習の学習を掲示する。教室や廊下にこれまでの授業での意見や気づきを掲示することで、子どもたちは日常の中で何度も立ち返り、自分の考えを思い出したり、広げたりする。
- ・ふりかえりの視点を全校で統一する。『感じたこと』『友達の意見を聞いて気づいたこと』『これからの生活にどう生かすか』といった観点をもたせることで、子どもたちが学んだことを自分なりに整理しやすくする。

2. 良好な学級・人間関係づくり（生徒指導部と連携して）

①生徒指導の4視点を意識した授業作り

- ・授業の土台となる「自己存在感の感受の促進」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を意識した声かけや環境づくりを考える。

②トークタイム、構成的エンカウンターの実施

- ・安心して誰とでも話せる集団作りを目的に、毎週朝学習でトークタイムを実施する。
- ・学級活動において、構成的エンカウンターを取り入れた活動を行い、共感的人間関係を育む。
- ・「毎月10日はほめほめDAY」を設定し、友達のよさや頑張りを言葉にして伝える取組を行う。

③児童会の取組・たてわり活動の充実

- ・異学年交流を通して多様な他者とかかわりながら、道徳的価値を実感し、深めていく。
→たてわり給食やたてわり遊びの実施

3. 家庭や地域とのつながりづくり（保健体育部と連携して）

①GTや地域教材（写真・動画など）の活用

- ・地域の方をゲストティーチャーとしてよび、子どもたちの心により響くような道徳の授業を行う。

②学校公開日での道徳の授業の実施

- ・各クラスで参観日の授業に道徳を1回は行い、保護者に見ていただく。懇談会でも話題に出し、啓発を図る。

③各学年で道徳通信の発行

- ・道徳の授業の様子についての通信を年1回各学年で発行し、道徳的価値について家庭への啓発を図る。

④アウトメディア週間でのファミリー道徳の実施（長期休み）

- ・夏休み、冬休み期間のアウトメディア週間と関連させて、その学期で授業を行った道徳教材について親子で考え、感想を書く機会をつくることで、道徳的価値について親子で話すきっかけとなるようにする。

4. 学習を支える基盤づくりとして取り組むこと

① 話し方・聞き方の指導

- ・「相手を大切にしたい聞き方・話し方」についての指導の充実
→相手を大切にしたい聞き方・話し方の具体的な姿を児童と共有する。（はんのうマジックワード）
- ・児童と共に道徳的価値について深めたことの掲示（各教室で、掲示板で）
→道徳で学習した教材名、内容項目やキーワード、児童のふりかえり等を残し、学びのあしあを共有する。

② 学習習慣や規律の徹底

- ・学習習慣・学習規律の徹底
→マナーアップ週間で、授業の基礎となる項目についても全校で取り組み、職員と児童で共有し、確実にできるようにする。
- ・パワーアップタイムの計画的実施

③ 目標をもって努力する場の充実

- ・学期に一度の旬間（鉄棒・持久走・縄跳び）や行事で、自分の目標に向かって努力する取組を実施し、成果が実感できるような掲示や取組の工夫をする。

5. 研究構想図



6. 研究の進め方

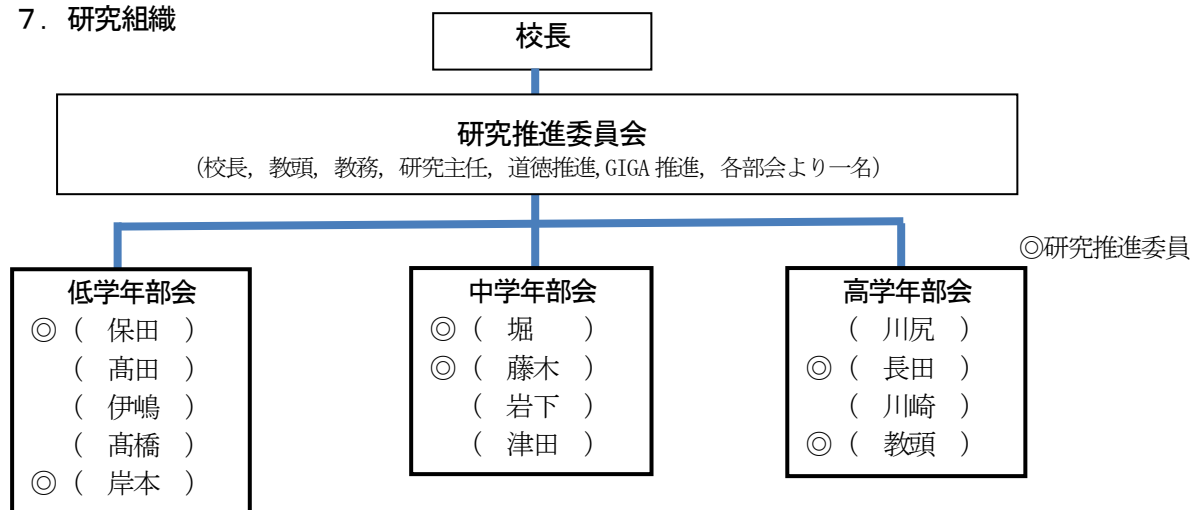
①研究授業

- ・低学年部会、中学年部会、高学年部会の3つの部会を組織し、研究を深める。
- ・計画訪問、研究発表会、部会研究授業にて研究授業を行う。
- ・全体研究授業、部会研究授業のいずれかを全員が行い、日々の授業にいかしていく。
- ・研究授業については、各部会の研究推進委員を中心にして、部会で事前に授業構想シートや指導案の共同立案及び検討会を持ち、全員で意見を出し合って授業を作り上げていく。
- ・計画訪問全体研究授業については、指導案検討会を全体で持つ。
- ・部会研究授業の指導案検討、および授業整理会は部会で行い、積極的な意見交流をする。
- ・授業記録、記録写真などの仕事は、各部会で受け持つ。
- ・教材研究や授業を行う際は、部会内外で相談し合うとともに、積極的に外部講師・指導主事を招聘し指導助言をあおぐ。
- ・授業交流週間を設け、互いに授業を見合い良さを見つけ、自分の授業改善に取り入れ、教師同士が学び合える関係をつくっていく。
- ・研究授業後、授業者は授業構想シートに自身のふり返りを記入し、授業改善につなげる。また、授業整理会での学びを研究主任が全教員へ還元することで、効果的な指導等を共有する。

②検証方法

- ・職員アンケートや児童アンケートによる意識調査・実態把握

7. 研究組織



8. 研究計画

期日		会名	内容	学年授業者
4月	3	要請訪問 (研推委)	今年度の研究について (評野指導主事・西河指導主事)	
	9	要請訪問 (校内研)	今年度の研究について・研究内容の確認	
	17	要請訪問 (研推委)	提案授業についての確認・指導案検討 〔児童・職員アンケート①〕	
5月	7	要請訪問 (校内研)	提案授業 (5限) 指導案様式、授業整理会	4年 藤木
	14	校内研究会	計画訪問指導案検討	
	20	校内研究会	山田貞二先生による校内研修(山田先生と5年生の授業と講話)	
	28	校内研究会	計画訪問模擬授業	
6月	4	研究推進委員会	全体会について・5年指導案確認	5年2組 長田
	24		計画訪問 全体研究授業 (5限) 授業整理会	
	27	校内研究会 (部会)	道徳実践交流	
7月			〔児童・職員アンケート②〕	
	22	校内研究会 (部会)	道徳での ICT 活用についての研修 (ベネッセ社先生) 1学期の取り組みについて 成果と課題	
	23	校内研究会	山田貞二先生による校内研修(山田先生のG Tとの模擬授業と講話)	
	24	研究推進委員会	1学期の成果と課題まとめ・研究発表会に向けて	
8月	4	校内研究会 (部会)	道徳構想シート検討	
	21	校内研究会	指導案検討	
	27	校内研究会	山田貞二先生による校内研修(模擬授業)	
9月	17	授業交流週間	各学年同士で授業を参観(～10/3)	
	22	校内研究会	模擬授業 (3年・5年)	
10月	17	事前授業	1・5年道徳事前授業	
		校内研究会 (部会)	事前授業について	
	22	研究推進委員会	研究発表会に向けて	
	27	校内研究会	板書交流・研究発表会に向けて	
	30	事前授業	3年道徳事前授業	
		校内研究会 (部会)	事前授業について	
11月	6	研究推進委員会	研究発表会に向けて	1年 保田 3年 堀 5年1組 川尻
	10	校内研究会	研究発表会に向けて	
	27	研究発表会	いしかわ道徳教育推進授業研究発表会 講演：山田 貞二氏	
12月	10	研究推進委員会	今年度のまとめに向けて〔児童・職員アンケート③〕	
	24	校内研究会 (部会)	今年度の取り組みについて 成果と課題	
	26	研究推進委員会	今年度の成果と課題・検証	
1月	7	校内研究会	今年度の成果と課題の共有 低・中・高部会	
2月	13	研究推進委員会	今年度の研究のまとめ・次年度に向けて	
	25	校内研究会		
3月	10	研究推進委員会	来年度の研究について	
	18	校内研究会	来年度の研究について	